



## 追悼

良啓

先日、京都のお師匠様が遷化(せんげ「永眠」と同意語)されました。世壽九十五歳の大往生でした。世界遺産に登録され、真言宗の総本山である東寺で「おじいちゃん」と呼ばれ、皆から親しまれていました。

老僧との出会いは、京都の修行道場でした。難解な本山のしきたりに悪戦苦闘の毎日の中、精神的に厳しい状況でしたが、春風の様な雰囲気場で和ませて頂きました。

また、お大師様の一代記である「弘法大師行状絵詞 ころぼうだいしぎようじょうえいことば」の講義は、お大師様について浅学であった私にとつて、深く学ぶきっかけになりました。南北朝時代(一三七四年)に書かれた書物ですので古文が苦手な私は苦労しましたが、文章をそのまま訳すのではなく現代的な解釈を添えて解説されるので非常に分かり易く、お陰様で古文や古語が好きになりました。難しい事をかみ砕き、分かり易い表現に置き換える話術は、私の法話の原点です。

ある時、既知の高僧が遷化された事に悲しみ、廊下ですれ違った私を捕まえ、「美しい坊さんだった。美しいと言うのは、容姿ではない。立ち居振る舞いや身体の内から出てくるオーラなんじゃよ。良いか、美しい坊さんになれ」と遠い目をして話されました。その時は分かった様な顔をしていました。年を重ね、段々と言わんとしている事を理解しました。美しさとは「着座する時の着物の払い方」、「読経の時の息継ぎ」など非常に細かい部分だと思えます。それは一朝一夕に身に付くものではなく、日々の積み重ねの賜物ではないでしょうか。

東寺で行われた葬儀の中、喪主挨拶で老僧の最後の言葉を紹介していただきました。昏睡状態が何日も続く中、急に意識が戻り、「みんなありがとう」とだけ言ったそうです。東寺のトップでしたが、偉ぶる事無く、誰に対しても丁寧な姿勢を貫いた老僧らしい一幕です。きっと今頃は、あの世で大好きなおばあちゃんに再会し、楽しくされているのでしょうか。

秀遍先生、ありがとうございました。合掌

## 漫画

で

11巻

### 【町でうわさの天狗の子／岩本ナオ】

奈緒子

皆様は仏教の漫画といえば、題材や登場人物は、ブツダや僧侶が多い印象ではないでしょうか？

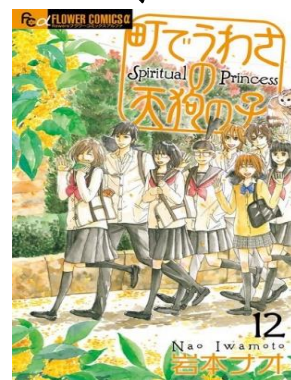
ところが、この漫画の登場人物は天狗たち。天狗とは、日本の民間信仰の中で、神様とも妖怪ともいわれる伝説上の生き物です。

神宮寺が所属する真言宗の開祖空海が伝えた密教は、山岳信仰と相まっていきました。天狗は、山の神様ともいわれ山岳信仰に深い関わりがあります。

そんな山岳信仰の修験道の一つに、火生三昧(火渡り)があります。火を渡る事によって、煩惱を焼き尽くし智慧を得るといって祈禱法です。作中、天狗を祀っている町の人々は、「体験修験道」の中で、火渡りを行っています。修験の衣装、火渡りで使う道具、南無・・・と書かれたのぼり、修験の口上など、火渡りの様子が良く描かれています。さて、十月十三日(日)のじんぐうじまつりでは、この火渡りが作中同様、体験できます。漫画の中で描かれた火渡りの様子をご覧ください。

護摩木に願いを添えて、皆様も

火渡りを体験してみてもいかがでしょうか。



じんぐうじ  
まつり内  
【火渡り】  
10/13日  
(日)  
16:45より  
開始  
神宮寺境内

